

令和8年度 森林・林業交流研究発表会開催要領

1 目的

林業の成長産業化や森林の持つ公益的機能の高度発揮に向けて、森林・林業に係る技術や優良取組事例等の情報交換と普及を図るとともに、参加者の研究課題への取組を通じて、森林・林業に係る人材育成に資する。

2 募集内容

公益的機能の高度発揮のための森林施業、林業の成長産業化に資する林業技術や手法、民有林と国有林による連携の取組、安全衛生意識の高揚の取組、国民参加の森林づくり、NPO等と連携した取組、森林環境教育の取組、国民視点に立った業務上の創意工夫など。

3 参加資格

- (1) 近畿中国森林管理局の職員
- (2) 近畿中国森林管理局管内の府県及び市町村の職員
- (3) 近畿中国森林管理局管内の森林・林業関係団体等の職員
- (4) 近畿中国森林管理局管内の教育機関の生徒・教職員等
- (5) 上記(1)～(4)と共同で研究する者

4 日程及び会場等

- (1) 日 程 令和9年2月3日(水)、4日(木)の2日間
- (2) 会 場 大阪府大阪市北区天満橋1丁目8-75
近畿中国森林管理局 4階 大会議室
- (3) 発表方法 会場集合による発表
- (4) 発表時間 1課題につき発表10分、質疑応答3分、計13分

5 審査

発表内容については、審査委員が別紙5に定める審査項目により審査を行う。

6 優秀発表者の表彰

発表内容について審査を行い、優秀な発表者に以下の表彰をする。

- ・近畿中国森林管理局長賞 最優秀賞1点、優秀賞2点以内
- ・森林総合研究所関西支所長賞 1点
- ・林木育種センター関西育種場長賞 1点
- ・(一社)日本森林技術協会理事長賞 1点
- ・(一財)日本森林林業振興会会長賞 1点
- ・審査委員長賞 審査委員長が必要と認めた点数

7 発表の申込み・問い合わせ先

(1) 発表の申込み

別紙1により作成の上、電子メールにて令和8年11月13日(金)までに申込み
(申込先) 〒530-0042 大阪府大阪市北区天満橋1丁目8-75
近畿中国森林管理局 森林整備部 技術普及課 企画係 宛
E-mail : kc_fukyu@maff.go.jp
TEL : 050-3160-6754

(2) 発表要旨の提出

別紙2により作成の上、令和8年12月28日(月)までに提出
(提出先は申込先と同じ。審査委員に配布、当局HPに掲載。)

(3) 発表用データ等の提出

別紙3により作成の上、令和9年1月25日(月)までに提出
(提出先は申込先と同じ。審査委員に配布。)

(4) 発表集録用原稿の提出

別紙4により作成の上、令和9年2月19日(金)までに提出
(提出先は申込先と同じ。当局HPに掲載。)

提出期限 令和8年11月13日(金)

令和8年度森林・林業交流研究発表会発表申込書

① 発表課題名	
② 発表者等の所属・氏名（<u>ふりがなを併記</u>）	
③ 機器操作者	

担当者連絡先 (住所)
ふりがな
(氏名)
E-mail
(電話)

別紙 1 (記載例)

提出期限 令和 8 年 11 月 13 日 (金)

令和 8 年度森林・林業交流研究発表会発表申込書

① 発表課題名			
流域管理システムと国有林の果たすべき役割について ～××県××地域の 4 町村を事例として			
② 発表者等の所属・氏名 (ふりがなを併記)			
××県××農林事務所	林業普及指導員	りゅういき 流域	はなこ 花子
	林業普及指導員	かんり 管理	いちろう 一郎
	林業普及指導員	りんむ 林務	じろう 次郎
	林業普及指導員	りんむ 林務	さぶろう 三郎 (共同研究)
③ 機器操作者			
例 1 パソコン (パワーポイント) : 林業普及指導員 りんむ 林務 じろう 次郎			
例 2 パソコン (パワーポイント) : 発表者本人が操作する。			

担当者連絡先 (住所) _____

ふりがな _____

(氏名) _____

E-mail _____

(電話) _____

※留意事項

研究発表会の申込みは、次の事項にご留意のうえ、記入願います。

- 1 複数者による共同研究において、発表会で発表をされない方については、氏名の後ろに「（共同研究）」を記入願います。ただし、この場合は当日のプログラムには氏名を記載せず、表彰・発表集録のみ記載します。
- 2 機器操作者も発表者として壇上に上がっていただきます。
- 3 申込みに当たっては、メールで提出願います。
- 4 発表申込先

近畿中国森林管理局 森林整備部 技術普及課 企画係 宛

TEL：050-3160-6754

E-mail:kc_fukyu@maff.go.jp

発表要旨の提出について

発表会要旨集として取りまとめ、ホームページに掲載するとともに、発表会に先立ち審査委員等に配付しますので、下記により作成の上、ファイルで提出願います。

1 作成要領

(1) 書式

- ・用紙 A4判縦、横書き
- ・余白 上下20mm、左右20mm
- ・文字数・行数 全角45文字、45行を目安とし、A4判1枚に収めること
- ・フォント 見出し：MSゴシック10ポイント、本文：MS明朝10ポイント等（作成例参照）

(2) 文字の配置

- ・タイトルは1行目、サブタイトルがある場合は2行目に、中央揃えで記載すること。
- ・その下の行に発表者の所属・氏名を記載し、右端は全角2文字分を空けること。
- ・その下の行に発表区分を記載し、さらに下の行から本文を記載すること。

(3) 記載内容

- ・原則として「1 はじめに（背景・目的）」「2 方法」「3 結果と考察」の構成とすること。
- ・「発表区分（新規・続報）」にチェックを入れ、続報の場合は過去の発表年度を併記すること。なお、「新規」とは、本発表会において初めて発表する内容であることとする。
- ・研究内容を表すキーワードを3～5語程度記載すること。
- ・引用文献は主要なものを記載し、多数ある場合は代表的な文献に絞ること。
- ・研究内容が伝わりやすくなるよう、可能な限り図表又は写真を挿入すること。

(4) 文体

- ・文体は常体（である調）に統一し、敬体（です・ます調）は使用しないこと。

2 ファイル形式

「Word 2016、2019、2021、2024 及び Word for Microsoft 365」のファイル形式で提出すること。

3 提出方法

メールにより提出すること。

4 発表要旨送付先

近畿中国森林管理局 森林整備部 技術普及課 企画係 宛

TEL：050-3160-6754

E-mail：kc_fukyu@maff.go.jp

下刈り回数の違いがスギコンテナ苗の初期成長に及ぼす影響

〇〇署 森林整備官 造林 花子〇〇

[名前：MSゴシック 10P] 一般職員 育林 太郎〇〇

発表区分 ☒新規 ☐続報（過去発表年度：令和 年度）

1 はじめに（背景・目的）[見出し：MSゴシック太字 10P]

再造林における下刈りは、植栽木と競合する雑草木を除去し、植栽木の初期成長を確保するための重要な保育作業である。一方、夏季の高温下で行う下刈りは労働負荷が大きく、再造林経費に占める割合も高いことから、作業回数の削減が求められている。近年は、コンテナ苗や特定苗木等を活用し、競合植生の状態に応じて下刈りの要否を判断する取組が進められているが、下刈りを省略した場合の成長遅れや枯損への影響は、植栽地の立地条件や競合植生の種類によって異なる。本調査では、スギコンテナ苗を対象として下刈り回数の異なる試験区を設定し、植栽木の成長、生存率及び競合植生との関係を比較することで、通常施業への活用を見据えた下刈り省力化の可能性を検討した。[本文：MS 明朝 10P]

2 方法

調査地は〇〇国有林の皆伐跡地に設定し、植栽密度は2,000本/haとした。試験区は、毎年下刈りを行う「毎年区」、2年目の下刈りを省略する「隔年区」、原則として下刈りを行わない「無下刈り区」の3処理とし、各処理3反復を設けた。各区では、植栽木の樹高、根元径、生存状況、主軸被害の有無を毎年秋季に調査した。また、植栽木周辺の競合植生について、最も高い雑草木の種類と高さ、植栽木への接触状況及び被覆の程度を記録した。調査対象木は各区から系統的に抽出し、植栽列に沿って5本に1本を基本とした。処理区間の成長差については、調査年及び処理区を説明変数とし、個体差と反復区の違いを考慮して比較した。さらに、下刈り前後には各処理区の植生高と被覆状況を同一地点から撮影し、年次変化を記録した。あわせて、作業時間と刈払面積から単位面積当たりの作業量を算出した。

3 結果と考察

植栽3年後の平均樹高は、毎年区〇〇cm、隔年区〇〇cm、無下刈り区〇〇cmとなり、下刈り回数が少ない区ほど低い傾向を示した（図1）。一方、隔年区では毎年区との差は一定程度にとどまり、生存率にも大きな低下はみられなかった。無下刈り区では、ススキ及び落葉広葉樹が植栽木を上回る箇所での成長の停滞が目立ち、植栽木への上方被圧及び側方からの接触が多い個体ほど樹高成長量が小さかった。このことから、下刈り回数を一律に削減するのではなく、競合植生の高さや植栽木との位置関係を基準として実施の要否を判断することが重要と考えられた。特に、植栽木が競合植生と同程度以上の高さに達し、主軸への上方被圧が少ない場合には、1回程度の下刈り省略が可能であることが示唆された。写真記録からも、隔年区では下刈りを省略した年に一時的な被覆の増加がみられたものの、翌年には植栽木の多くが競合植生を上回った。また、隔年区では毎年区より作業量が減少し、一定の省力化効果が確認された。ただし、斜面下部など植生の繁茂が旺盛な箇所では成長差が大きく、立地条件を踏まえた判断が必要である。今後は、成長遅れが将来の成林や材積に及ぼす影響、作業省略によるコスト削減効果及び植生タイプ別の判断基準を整理し、現場で簡便に活用できる下刈り要否判定方法につなげる必要がある。

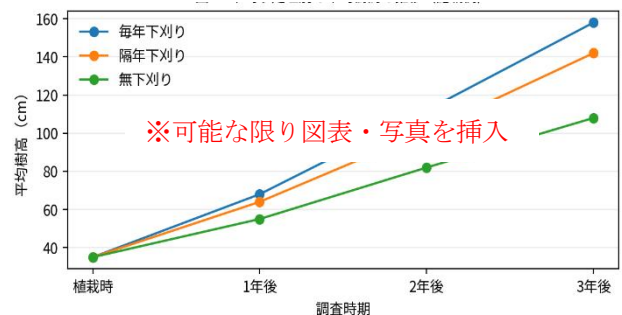


図1 下刈り処理別の平均樹高の推移

[行数：45、文字数：45を目安とし、A4判1枚に収めること]

※キーワードは、研究内容を表す語を3～5語程度選び、必ず記載すること。

キーワード：下刈り省力化・スギコンテナ苗・競合植生・初期成長・再造林[MSゴシック 10P（見出し太字）]

引用文献[MSゴシック 9P]

※引用文献は主要なものを記載し、多数ある場合は代表的な文献を記載

1).....[MS 明朝 9P]

2).....

発表会当日のデータ等の提出について

発表会当日に使用する機器及びデータ等は次のとおりとなっていますので、ご留意のうえデータ等の提出をお願いします。

- 1 発表会で使用する機器は、パソコンとプロジェクター各 1 台です。
投影するスクリーンの比率は 4:3 です。
- 2 使用ソフトは、PowerPoint for Microsoft365 です。
作成容量は 50MB 以内とします。動画を使用する場合は、事前にご相談下さい。
- 3 使用機器の操作は、発表者及び機器操作者本人が操作することを原則としますが、これによりがたい場合はその旨記載して下さい。
- 4 提出は、大容量ファイル転送サービスを用いての提出をよろしく願います(後日、事務局より通知いたします)。
※ U S B メモリー等の U S B 接続機器は、情報セキュリティ対策のため使用できませんのでご注意下さい。
- 5 ファイル名については、「タイトル名 (所属名)」として下さい。

発表集録用の原稿について

研究発表内容を「令和 8 年度森林・林業交流研究発表集録」としてホームページに掲載しますので、下記により作成のうえ提出してください。

1 書式

概ね以下を標準に作成してください。

- ・用紙設定 A 4 縦 横書き 余白は上下左右とも 30 mm
- ・文 字 全角 40 文字 46 行
- ・数 字 等 数字は 1 桁全角、2 桁以上半角とし、3 桁ごとにコンマ（,）で区切り。
単位は半角（cm、ha、%等）。アルファベットは基本半角とし、略語や略称は大文字小文字を正しく表記してください（Web、SDGs、iPad 等）。
- ・フ ェ ン ト 本文はMS 明朝 10.5 ポイント
タイトル・発表者名・見出し（章）はMS ゴシック 10.5 ポイント
- ・文字の配置 タイトル（発表課題名）は 1 行目、サブタイトルもつける場合は 2 行目に中央揃えで記載してください。
タイトルまたはサブタイトルの下に 1 行空けて、発表者の所属・氏名を記載し、右端は全角 2 文字分を空白にしてください。共同研究の場合は、発表会で発表した者の氏名の前に○印を付してください。
発表者の所属・氏名の下に 1 行空けて「要旨」を記載し、その次の行から要旨本文を記載してください。要旨本文の下に 1 行空けた次の行に、研究内容を表す「キーワード」を 3～5 語程度記載してください。
キーワードの下に 1 行空けて最初の見出しを記載し、本文はその次の行から記載してください。文章は両端揃え（「ホーム」タブ→「段落」→「両端揃え」）とし、各行の行末を揃えてください。
- ・見出し記号 1 →（1）→アの順序の 3 段階までとします。
- ・箇条書き 箇条書きで「・」（ビュレット）を使用する場合は、全角・（中点）で記載してください。
- ・図表の配置 図表等のキャプションは、図及び写真は下に、表は上に中央揃えで記載してください。フォントは原則**MS ゴシック 10.5 ポイント**とし、小さくなり過ぎないようにしてください。長いキャプションはインデントして折り返してください。

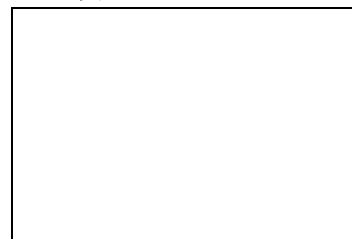
（例）



図－ 1 × × × ×

写真－ 1 × × ×

表－ 1 × × × ×



2 原稿

1 課題につき 10 ページ以内とします。原稿は、原則として「要旨」「キーワード」「1 はじめに（背景・目的）」「2 方法」「3 結果」「4 考察」「引用文献」の順に構成してください。

文体は常体（である調）に統一してください。敬体（です・ます調）は使用しないでください。

3 原稿の形式

- (1) 「Word2016、2019、2021、2024 及びWord for Microsoft365」のいずれかのファイルをお願いします。
- (2) 画像等は、gif、jpeg、tiff、png ファイル形式のものを、容量とサイズに注意して貼り付けしてください。
- (3) 原稿の作成容量は、50MB 以内とします。

4 原稿の提出

ファイル名については、「タイトル名（所属名）」としてください。

ファイルを電子メールにより提出してください。

（注：図表及び写真は修正可能なファイルを別に添付してください。）

5 その他留意事項

引用した文献（図表を含む。）は、その都度文中で明記するか、文末にまとめて明記して下さい。記載順序は、

書籍の場合「著者名 タイトル：図書名（論文名）、ページ、出版社名（行政機関の場合は記載不要）、発行年」

インターネットサイトの場合「サイト名、タイトル、URL（最後に閲覧した年月日）」とします。無断転載にならないよう特に注意してください。

新聞記事の切り抜きを使用する場合は、新聞社の掲載許可を添付してください。

6 発表集録用原稿送付先

〒530-0042 大阪府大阪市北区天満橋 1 丁目 8-75

近畿中国森林管理局 森林整備部

技術普及課 企画係 宛

TEL：050-3160-6754

E-mail:kc_fukyu@maff.go.jp

2 字空白

1 行空白

1 行空白

1 行空白

.....

4 考察

- 本研究では、・・・・・・・・・・・・・・・・・・、本流域におけるこれら□□□側の積極的な取組みに対して今後○○○がどのような役割を果たしていくべきか、△△△側も具体的な行動計画を示すべき時期にきており、本研究がそのための提言として参考になればと考える。

引用文献

- 1) 活性三郎 □□流域での取組：流域活性化優良事例集、56～62、活性出版、2017
- 2) サイト名,「タイトル」,URL,(最後に閲覧した年月日)

[下余白 30 mm]

令和8年度 森林・林業交流研究発表会 審査項目

審査項目	
課題選定	・着眼点が斬新であるか。 ・地域の課題・ニーズを踏まえているか。 ・手法・アプローチが適切か。
充 実 度	・調査・取組期間は適当か（計画性）。 ・分かりやすい発表内容か（図表等の効果的な活用、ストーリー性）。
研究深度	・データ分析が十分に行われているか。 ・考察が十分に深められているか。 ・続報の場合、前回発表から調査・分析・考察等が十分に進展しているか。
貢 献 度	・波及効果が大きいのか。普及が容易か。 ・他の取組への汎用性があるか。
発表態度	・説明の仕方、速さ、声の大きさは適切か。 ・質疑に対して的確な応答ができているか。